

瑞穂町からの質問に対する回答

平18.1.30
東京防衛施設局施設部

質問事項		回答	備考
問1	総隊司令部と関連部隊で約600名と前回説明を受けたが、詳細を知りたい。	<p>横田飛行場への移駐を考えているのは、空自航空総隊司令部の他、この司令部と併せて置かれるべき機能を有する空自航空総隊隷下の作戦情報隊、防空指揮群が考えられるが、現在のところ、確定しているものではない。</p> <p>参考までに申し上げます、現在、府中に所在する空自航空総隊司令部、作戦情報隊（一部）、及び防空指揮群の人員は約600名である。</p> <p>基本的には、府中基地に所在する空自航空総隊司令部、空自航空支援集団司令部などの部隊のうち、航空総隊司令部について、そのすべてが移駐することを考えているが、現時点で移駐する詳細な要員の数等について具体的に申し上げられる段階にはない。</p> <p>防空指揮群は、群本部、指揮所運用隊、通信電子隊及び基地業務隊の4つの部隊から構成（約320名）され、防空情報の収集・伝達や、それらに必要な機器の整備等を任務としている。</p> <p>空自航空総隊は我が国の防空を主任務としており、司令部は、防空作戦を始めとするさまざまな航空作戦の指揮統制を担うほか、我が国のミサイル防衛における統合司令部としての機能も保持させる計画である。</p> <p>再編により、横田に移駐する空自航空総隊司令部及び関連部隊以外の部隊により、府中基地は引き続き使用されるものと承知している。</p>	
問2	移転の時期はいつ頃か。	<p>空自航空総隊司令部の移駐の時期、運用開始時期について具体的に申し上げられる段階にないが、日本側としては、可能な限り早期に移駐と運用開始を実現すべく米側と協議を行っていく考えであり、その協議の状況について、適宜、地元自治体等にご説明し、ご理解とご協力が得られるよう最大限の努力をしてみたい。</p>	
問3	新たな施設の建設をする場合の規模は。地下にもつくるのか。	<p>横田飛行場への空自航空総隊司令部の移駐に伴う施設整備としては、司令部庁舎、隊舎、宿舎などの関連施設、連絡機や輸送機等のアクセスのための施設（例：燃料給油等の軽易な補給や整備を行うための施設、気象情報や飛行計画授受のための施設）などが考えられるが、地下室の有無を含む施設整備の規模等の詳細については、現時点において具体的に申し上げられる段階にはない。</p> <p>施設整備の開始時期等のスケジュールについても、具体的に説明できる段階にはないが、日本側としては、可能な限り早期に施設整備が開始できるよう米側と協議を行っていく考えであり、その協議の状況について、適宜、地元自治体等にご説明し、ご理解とご協力が得られるよう最大限の努力をしてみたい。</p>	
問4	府中基地には滑走路がないため常駐機はないが、移転した場合は常駐機が必ず配備されるのではないかと懸念している。常駐機の配備はないと約束できるのか。	<p>空自航空総隊司令部所属の航空機部隊の常駐は想定していない。ただし、横田飛行場への空自航空総隊司令部の移駐に当たり、司令官をはじめとする自衛隊員の移動などのためのC-47Jなどのヘリや、U-4やT-4、またC-130Hなどの輸送機等の往来はあり得る。</p>	

質問事項		回 答	備考
問 5	総隊司令部と関連部隊の移転に伴い、瑞穂町側（横田基地外）への影響はあるのか。（ゲートの設置、施設の建設、新たな道路整備等）	空自航空総隊司令部等の移駐に伴う自衛隊用のゲートの設置、施設整備、基地周辺の道路交通に与える影響などについては、今後日米間の調整を加速し、地元に対しても適宜説明を行っていく考えである。	
問 6	総隊司令部と関連部隊が併置され、ミサイル防衛の強化がされた場合の警備はどうなるのか。（ヘリコプターの旋回警備、各所の検問等が日常的になり、住民が安心して生活できなくなるか）	空自航空総隊司令部等の移駐により、横田飛行場を自衛隊と在日米軍が共同で使用することとなる。その場合の具体的な基地警備の方法等については、現時点で具体的に説明できる段階にはないが、今後日米間の調整を加速化し、地元に対しても適宜説明を行っていく考えである。	
問 7	日米共同訓練の回数が増し、飛来機の増加が心配される。	空自航空総隊司令部の移駐自体による実動の日米共同訓練の増加は計画していない。	
問 8	軍民共用について検討するというが、本音はどうか。額賀長官は都知事と約束したようなことも聞いており、大変不安である。	<p>横田飛行場の軍民共用化については、2003年5月の日米首脳会談において、小泉総理とブッシュ米大統領の間で、その実現可能性につき日米間で共同で検討することにつき一致したものである。これを受け、政府関係省庁（内閣官房、外務省、国土交通省、防衛庁、防衛施設庁）と東京都との実務的な協議の場として「連絡会」を設置し、累次議論を行っている。</p> <p>このような状況において、横田飛行場については、2002年12月以降行われてきた在日米軍の兵力構成に関する議論の中で、そのあり方について全体として検討がなされるべきであったことから、在日米軍の兵力構成見直しに関する日米協議において、軍民共用化についても取り上げてきたところである。</p> <p>去る10月29日に開催された日米安全保障協議委員会（「2+2」）の結果、横田飛行場の「あり得べき軍民共同使用のための具体的な条件や態様が、共同使用が横田飛行場の運用上の能力を損なってはならないことに留意しつつ、検討される」とされたことを受けて、日米間で更に具体的な検討を進めていく考えである。</p>	
問 9	横田が1発で狙われる可能性が非常に高い。国は安全を住民に約束できるのか。	<p>我が国の安全の確保に当たっては、防衛力の適切な整備を進め、その維持・運用を図るとともに、日米安全保障体制を堅持し、日米の効果的な協力態勢の構築に努めるなど、その信頼性を向上させて隙のない防衛態勢をとることが重要である。</p> <p>自衛隊施設及び横田飛行場をはじめとする在日米軍の施設・区域は、我が国に対する弾道ミサイル攻撃をはじめとする攻撃への対処能力・抑止力を維持し、我が国の安全を確保する上での重要な基盤を提供するものである。</p>	
問 1 0	3月までに地元で具体的な説明をする計画はあるのか。3月に決まったことを話されても、住民の理解は得られない。	<p>在日米軍の兵力構成見直しについては、米軍施設・区域所在地の住民の方々の生活に直接影響する問題であることから、地元自治体の理解を得ることが極めて重要であり、政府として説明責任を果たしていくべきものと認識しているところである。</p> <p>今後、政府としては、最終報告に向け、これまで頂いた御意見を踏まえつつ、日米協議を加速し、早急にその具体的内容を詰めるとともに、途中経過については、適宜地元自治体にご説明してまいりたい。</p>	